

例 きれいな 花が さいた。

この例文の場合は、修飾語「きれいな」は、どんな花かをくわしく説明していて、「花が」が被修飾語になります。

例 きれいに 花が さいた。

この例文の場合は、修飾語「きれいに」は、どのようにさいたかをくわしく説明していて、「さいた」が被修飾語になります。この場合、「きれいに」の位置を変えて、「花がきれいにさいた」としても、文意が通ります。ここから、「きれいに―さいた」が修飾語と被修飾語の関係になっていると判断できます。

例 庭に、むらさき色の あじさいの 花が たくさん さいた。

この例文の修飾語「庭に」は、その位置を変えて、「むらさき色の あじさいの 花が たくさん 庭に さいた。」としても文意が通ります。ここから、「庭に」はどこにさいたかをくわしく説明している修飾語で、「さいた」がその被修飾語だと判断できます。

### 《体言》

体言とは、活用がなく（形が変わらなく）、「が・は」などをもなつて主語になれることばです。品詞でいうと、**名詞・代名詞**にあたり、そのうち、名詞は、さらに四つの種類に、代名詞は、さらに二つの種類に分けることができます。なお、代名詞は、名詞の種類の一つと考えることもできます。

#### ◆名詞の種類◆

① 普通名詞（ある種類に属する事物を広く指すもの）

例 「心」「学校」「上」「右」「シャツ」

② 固有名詞（ある特定の事物の名前として用いるもの）

例 「日本」「東京」「太平洋」「エジソン」

③ 数詞（数量や順序を表すもの）

例 「一つ」「三番」「二回」「四十年代」

④ 形式名詞（抽象的な意味を表し、常に修飾語を付けて用いるもの）

例 「こと」「もの」

#### ◆代名詞の種類◆

① 指示代名詞（現場にあるものや文脈、記憶の中のものを指し示すもの）

例 「これ」「そこ」「あちら」「どれ」

② 人称代名詞（話し手、受け手、および話の中で指定された人を指し示すもの）

例 「わたし」「きみ」「かれ」「あなた」

### 《用言》

用言とは、活用があり（形が変わり）、単独で述語になれることばです。動詞・形容詞・形容動詞が用言になります。

● 動詞（活用があって、動作・作用・存在などを表す。言い切りの形の語尾がウ段の音になる）

例 「歌う」「固まる」「走る」「向く」「成長する」

たとえば「話す」という動詞の場合、「話さナイ／話しマス／話す／話すヒト／話せば／話せ／話そウ」と語尾の形が変化します。

● 形容詞（活用があって、性質・状態などを表す。言い切りの形の語尾が「い」になる）